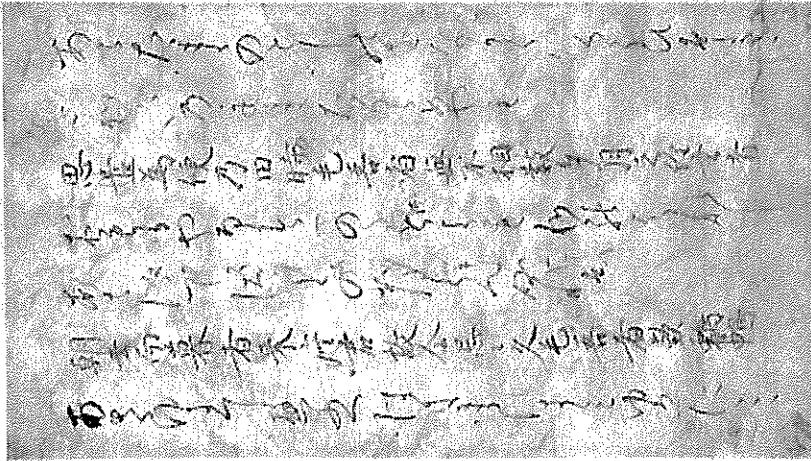


# 歴史文化資源の情報をいかに伝えるか

奈良県立万葉文化館 井上さやか

■尼崎本断簡(平安時代末期写)

万葉文化館蔵



- ・ 一幅
- ・ 掛幅装
- ・ 紙本墨書
- ・ 本紙寸法

25.3cm × 14.3cm

※同じ巻二一の断簡  
(東京国立博物館蔵)  
は重要美術品認定

あらたまのとしのをなかくかくこひはまこ  
 とわかいのちまたからめやも  
 思遣為便乃田時毛吾者無不相數多月之經去者  
 おもひやるすべのたときもわれはなし  
 あはすてつぎのおほくぐぬれば  
 朝去而暮者来塵君故尔忌々久毛吾者歎鶴鴨  
 あさゆきてゆふへはきますきみゆゑにこゝ

- ・ 現行テキスト訓読例(中西進編『万葉集 全訳注原文付』講談社、一九七八年)より  
 あらたまの年の緒長くかく恋ひはまこことわが命全からめやも (12二八九一)  
 思ひ遣るすべのたときもわれは無し逢はずまねく月の経ぬれば (12二八九二)  
 朝去きて夕は来ます君ゆゑにゆゆしくも吾は嘆きつるかも (12二八九三)

## ◆恋に死ぬ

あらたまの 年の緒長く かく恋ひは まことわが命 全からめやも

万葉集 卷十二二八九一 作者未詳

### 【口語訳】

あらたまの年月長くこのように恋したなら、まことに、わが命を全うすることがどうしてあろう。

### 【解説】

この歌は、恋心に死ぬという激しい思いをよんだ歌です。

あらたまとは枕詞で、意味・かかり方とも未詳ですが、ここでは年にかかっています。そして年の緒とは、年を糸や紐のように長く続くものとみなしての表現です。一日千秋という言葉があるように、恋する人に一日でも会えないと辛いものです。ところが、もしそれが長い年月続くとしたら……。この歌では、そんな仮定がされていて、その答えは、とうてい生きてはいられない、というものでした。

恋い死にするという少々誇張した恋の表現は、奈良時代の歌にしばしば見られます。

『万葉集』では、巻ごとに編集方針が異なりますが、この歌が収められた巻十二には「古今の相聞往来の歌」が集められています。なかでもこの歌は「正に心緒を述べたる歌」と分類されていて、まさにストレートに恋心をよんだ歌といえます。

(『万葉集からみる「世界」』新典社、二〇一二年／初出:「よろずは」第八号、二〇〇五年一月)

閉じる

登録美術品

主情報

名称: 万葉集卷第十二断簡<(尼崎切)>  
<(大王之)>

ふりがな: まんようしゅうまきのだいじゅうにだんかん<(あまがさきぎれ)>/<(おおきみの)>

員数: 1幅

種別: 文字資料

国: 日本

時代: 平安

制作時期: 平安時代

西暦: 11世紀半ば

作者:

寸法・重量: 掛幅装、紙本墨書、本紙寸法 24.5cm×12.5cm

伝来・その他参考となるべき事項: 昭和10年12月13日 重要美術品認定

登録番号: 044

重文指定年月日:

国宝指定年月日:

所在都道府県: 東京都

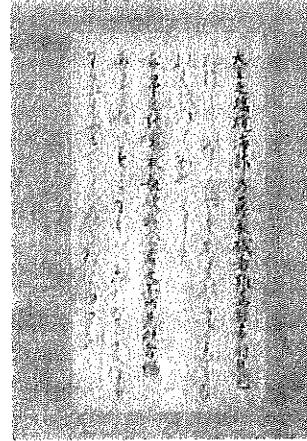
所在地: 東京都台東区上野公園13-9

公開契約館の名称: 独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館

所有者名:

解説文:

詳細解説



万葉集卷第十二断簡<(尼崎切)>/<(大王之)>

写真一覧



地図表示



2

関連情報

(情報の有無)

添付ファイル

なし

閉じる

## 『マンがて楽しい古典万葉集』(ナツメ社、二〇一六年)

※もみ降も同じ

## はじめに

奈良県立万葉文化館 主任研究員  
井上さやか

## 勉強ギライの私からあなたへ

私はずっと勉強が大キライでした。とくに数学・物理・英語、そして古典文学。それなのに、なぜか『万葉集』や『古事記』を研究する仕事に就き、このたびは本書の監修をさせていただくことになりました。

高校時代、何の目的もなくただ就職するのが嫌さに進学した大学で、暗記ありき文法ありきではない文学の授業におもしろさを感じ、その後ようやく猛勉強して大学院に進学、運良く現在の職場にもぐり込むことができました。その時々に出会った方々や物事に力をいただいたおかげで、いまの私があります。

それでも、最初に監修のお話をいただいたときは、ほかに適任の方はいくらでもいらっしゃるからと辞退するつもりでした。ただ、自分が勉強ギライだったからこそ、「無理矢理やられる勉強」ではないと「楽しい」ということを知っています。勉強ギライの視点ならではの本づくりのお手伝いならできるかもしれない、と考え直しました。

## 「知る」「わかる」ことの楽しさ

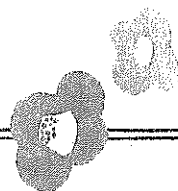
学校の成績には直結しませんが、勉強ギライでも好奇心は旺盛でした。子どもの頃「これはなに?」「あれはなぜ?」と何にでも興味津々だったという方は多いのではないのでしょうか。残念ながら、大人になるにつれてそうした疑問を感じているゆとりがなくなり、好奇心もしぼんでいく場合が多いかもしれません。

でも、大人になってあらためていろんなことに興味が湧き、「へえ」「そうだったのか」と「わかる」ことの楽しさを知ったという方もまた多いのではないかと思います。昨今の出版物やテレビやラジオ、インターネットのコンテンツなどを見ると、そうした知的好奇心をくすぐる内容が多いと感じます。

古代の日本と現代の日本とは、生活環境や社会理念などの面で大きく異なっている部分があります。その一方で、人を愛したり、死を悼んだり、という基本的な人間の感情は、約千三百年前と今とでそれほど大きな隔たりはないように思います。

はたして、古代の日本列島に暮らしていた人々は、どんな毎日を送り、何を思っていたのでしょうか。歴史書には書かれることがないそんな「思い」を、万葉歌が伝えているといつても過言ではありません。本書は、それをマンガでご紹介しようと試みたものです。

文学って苦手だ、『万葉集』って難しそう、そんな方にこそ、ぜひ本書を手にとって好奇心のおもむくままにページを開いていただければ、と思います。



大伴淡等謹みて状す

梧桐の日本琴一面 対馬の織石山の孫枝なり

この琴夢に娘に化りて曰はく「余根を遙島の崇き巒に託け、髯を九陽の休き光に眺す。長く煙霞を帯びて、山川の阿に遣遙し、遠く風波を望みて、雁木の間に出入す。唯百年の後に、空しく溝壑に朽ちむとを恐るのみ。偶良匠に遭ひて、散られて小琴と爲る。質の麤く音の少しきを顧みす、恒希に

君子の左琴を希ふ」といへり。即ち歌ひて曰はく

如何にあらむ日の時にかも声知らむ人の膝の上わが枕かむむ

大伴淡等謹状

梧桐日本琴一面 対馬織石山孫枝

此琴夢化娘子曰、余託根遙嶋之崇巒、眺九陽之休光、長帯煙霞、遣遙山川之阿、遠望風波、出入雁木之間、唯恐百年之後、空朽溝壑、偶遭良匠、散為小琴、不顧質麤音少、恒希君子左琴、即詠曰

伊可余安良武 日能等伎余可母 許惠之良武 比等

能比射乃倍 和我麻久良可武

僕詩詠に報へて曰はく

言問はぬ樹にはありともうるはしき君が手馴れの琴にしあ  
るべし

琴の娘子答へて曰はく

「敬みて德音を奉はりぬ。幸甚」といへり。片時にして覺き、すなはち夢の言に感じ、慨然として止黙をるを得す。

故公使に附けて、聊か進御る。〔謹みて状す。不具〕

天平元年十月七日 使に附けて進上る。

謹通 中衛高明閣下 謹空

僕報詩詠曰

許等波奴 樹尔波安里等母 宇流波之吉 伎美我

手奈礼能 許等尔之安流倍志

琴娘子答曰

敬奉德音、幸甚々々。片時覺、即感於夢言、

慨然不得止黙。故附公使、聊以進御耳。〔謹状

不具〕

天平元年十月七日 附使進上

謹通 中衛高明閣下 謹空

〔大伴旅人、謹んで言上〕

青桐の大和琴一面 対馬の織石山の孫枝で作つたもの

この琴が夢の中で少女となつて次のように語りました。「私は根を沖遠き島の高山にのぼし、髯を太陽の美しい光にきららして来ました。長く煙霞をまとひ、山川の中に心を遊ばせ、遠く風や波を望み過しては、役に立つとも立たぬともなく過ごして来たのです。ただ、生涯を終えて、空しく谷間に朽ち果てるのたろうかかと不安には思っていました。ところがたまたままりつばな細工師に出あい、朝られたごささやかな琴になりました。質も悪く、よい音も出ないのが身も顧みず、つねにりつばな方の愛用の琴となりたと思つています」と。ついで少女は次のように歌いました。

いつの日にか私の音色を理解してくれ。人の膝の上に、私は枕するので

1以下書簡そのまま。「栗謹状」は書簡冒頭の書式。「淡等」は旅人のタ(タム)はタビと相通)とトを義記(字合(馬飼)に同じ。漢風義記。時に旅人六十五歳、房前四十九歳。2六絃。膝の上のせて弾く。3幹から出た枝。特に琴材を得るには本幹を切り後に出る幹を用いるという。5対馬のこと。以下に嵯康の琴賦からの文飾がある。6幹。7「莊子」の故事。莊子が山中にあつて大木を伐らず小木を伐る男に、故をきくと大木は役に立たぬからだと、次一家に宿ると主人は役に立たぬからとて鳴かぬ雁を殺して馳走した。後、弟子は無用にて助かり無用にて殺されると、どうすればよいかと莊子に尋ねると、莊子は有用と無用の間にしよう。暗答した。8死後。9鑿は谷。10房前を暗示する。11書は右に琴は左におくという。12いいわゆる知音で親友。13膝上に弾することをを恋愛ふうに表示。14底本「巽」。紀らによる。

そこで私は次のように答え歌いました。

ことばをいわぬ木ではあつても、あなたは、すぐれたお方が愛用される

琴のはずです。

「つつしんでおことばをおうけたいです。しあわせなことですよ」と。

ほんのわずかの間で私は目をさまし、ぐに夢の中の少女のことばに感動し、感

嘆のあまり黙つていることができません

でしたので、公の使につけてたわむれに献上いたします。〔謹しんで申し上げました。不具〕

天平元年十月七日、使いに託して進上、中衛府大將、高明の閣下に謹しみ致す。謹空

1尊敬すべき、りつばな 2主旨は少女

3りつばなのおことばは旅人の歌をさす

4書簡末尾の慣用語。旅人書簡は終らぬが娘子との問答は終る。5感慨をまよおし

て。6折しも大宰大監(げん)大伴百代が上京、大監は三等官。正六位下相当。7

10時、房前は中衛大將か。また「公卿補任」

に「くさうぶにん」によると翌二年十月一日任。11尊称。12閣下と同様の尊称。13い

わゆる賜付けとして慣用のもの。

〔巻五・八二〕

贈りもの

言問はね 樹にはありとも うるはしき  
君が手馴れの 琴にしあるべし

大伴旅人

ことはをいわぬ木ではあつても、  
あなたは、すぐれたお方が愛用さ  
れる琴のはずです。

アオギリちゃんのだ

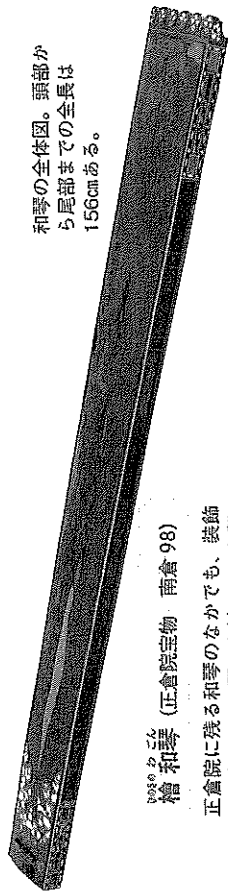
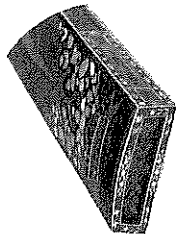


6

# 正倉院宝物と『万葉集』

162ページの歌で、大伴旅人が藤原房前に贈ったのは「日本琴（和琴）」と呼ばれる琴です。和琴は日本固有の琴で、その多くはキリの本でつくられました。和琴は奈良時代の重要な宝物を納めた東大寺の正倉院にも残されています。

『万葉集』には正倉院に伝わる宝物やそのデザインを思わせる歌があります。そのうちの三首を、宝物とともに紹介しましょう。



和琴の全体図。頭部から尾部までの全長は156cmある。

和琴 (正倉院宝物 南倉 98)

正倉院に残る和琴のなかでも、装飾性が高い。この琴の素材はヒノキ製。

## 春霞 流るるなへに 青柳の 枝くひ持ちて 鶯鳴くも

作者未詳 (巻十・一八二)

春の霞が流れるとともに、青柳の枝を口にくわえては飛びつゝ鶯が鳴くことよ。

### 花喰鳥をイメージさせる歌

霞が流れる春の日に、また若い枝をくわえた鳥が鳴きながら飛んでいるという歌です。しかしよく考えてみると、鳥は枝をくわえたまま鳴くことはできません。この歌は実際の風景を詠んでいるのではなく、「花喰鳥」という文様の一種を扱っていると考えられています。花喰鳥は花のついた枝などを鳥がくわえた装飾文様で、その起源は遠くササン朝ペルシヤにありました。鳥の種類はオウムや、瑞鳥とされる鳳凰などともいわれています。

正倉院の宝物「基石」という碁石や、「紅牙撥鏝尺」というものさしにもこのデザインが見られます。

この歌の作者は、花喰鳥が描かれた工芸品が何かを見たのかもしれませんがね。



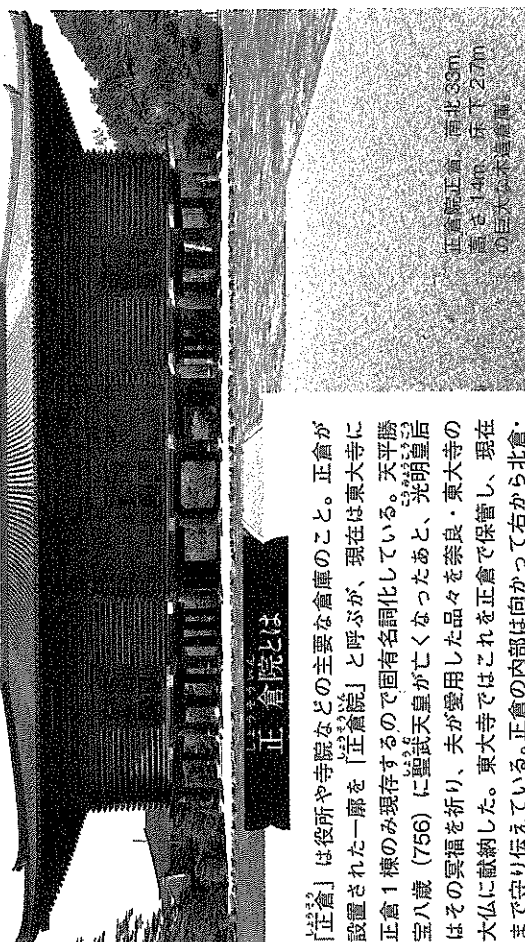
紅牙撥鏝尺 甲 (正倉院宝物 北倉13)



碁石 (正倉院宝物 北倉25)

米画紫雲素局という碁盤で用いられた碁石。花喰鳥の紋様が描かれる。

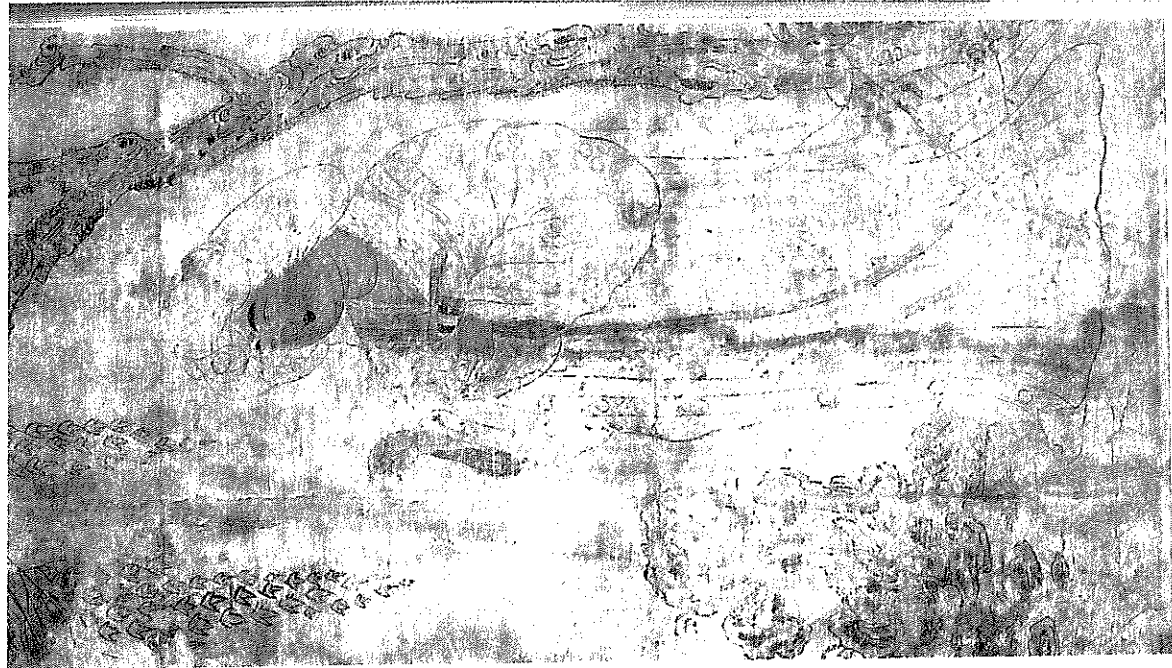
約一尺 (29.8cm) のものさし。象儀礼用と考えられている。象牙の表面を色染めし、細かい影り込みを入れてうえて、彩色を加えて美しい文様を施す、「撥鏝」という技法が用いられる。



正倉院正倉、南北33m、高さ14m、坪下27mの巨大な木造倉庫

「正倉」は役所や寺院などの主要な倉庫のこと。正倉が設置された一廓を「正倉院」と呼ぶが、現在は東大寺に正倉1棟のみ現存するので固有名詞化している。天平勝宝八歳 (756) に聖武天皇が亡くなったあと、光明皇后はその冥福を祈り、夫が愛用した品々を奈良・東大寺の大仏に献納した。東大寺ではこれを正倉で保管し、現在まで守り伝えている。正倉の内部は向かって右から北倉・中倉・南倉の三室に分かれ、東大寺の儀式で使われたものも含めた約九千もの宝物が種類別に納められている。





鳥毛立女屏風 第3扇  
(正倉院宝物 北倉44)

屏風は六扇あり、三扇は木の下に立つ女性、残りの三扇は木の下に座る女性が描かれている。女性の頭髪や衣服、背後の樹木などに、日本のヤマドリ羽毛を貼って仕上げられていた。現在はそのほとんどが剥がれ落ち、わずかに一部だけが残っている。

春の苑 紅にほふ  
桃の花 下照る道に  
出で立つ少女

大伴家持 (巻十九・四一三九)

春の苑に紅がてりはえる。  
桃の花の輝く下の道に、  
立ち現れる少女。

美しい図柄に連じる情景

天平勝宝三年(750)三月の日暮れのことです。家持は春の庭で薄紅色の桃と李の花を眺め、歌を詠みました。これはそのうちの一首です。この歌からイメージされるのが、正倉院

宝物のなかの「鳥毛立女屏風」です。これは別名「樹下美人図」と呼ばれています。唐では木の下に女性を配したこの図柄が大受好まれていました。

家持の歌はこの屏風がつくられたとされる年よりも前に詠まれています。桃と李を合わせた表現は漢詩にもとづくものであり、中国文化に詳しくった家持は、唐の「樹下美人図」を踏まえてこの歌を詠んだのかもしれませんが。

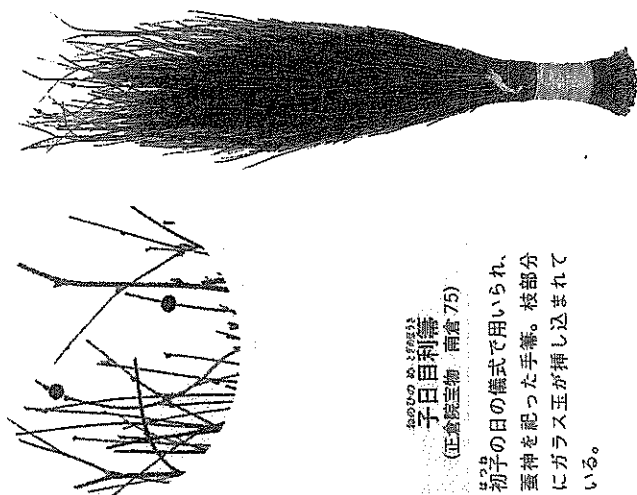
初子の日に国の繁栄を祈る

「初春の…」は天平宝字二年(758)の正月に行われた雲での歌です。この日、孝謙天皇は家臣を集めて「玉帚」を授け、人々にこころのまま歌や詩を詠むよう命じました。玉帚というのは養蚕をする部屋(蚕室)の床を掃き清めるものです。帚には玉飾りが施され、これを掃らすことで養蚕業の安泰を祈りました。なお、玉帚を授ける儀式の由来は中国にあり、皇后も帚で蚕室を掃いたそうです。家持は天皇に応えて歌を詠みましたが、彼は当時、弁官として大蔵省に勤めており、仕事の都合で歌を献上することはできませんでした。

初春の 初子の今日の 玉帚  
手に執るからに ゆらく玉の緒

大伴家持 (巻二十・四四九三)

新春の初子の今日の玉帚は、  
手にとるだけで掃れる玉の緒よ。



子日玉利帚  
(正倉院宝物 南倉75)

初子の日の儀式で用いられ、蚕神を祀った手帚。枝部分にガラス玉が挿し込まれている。

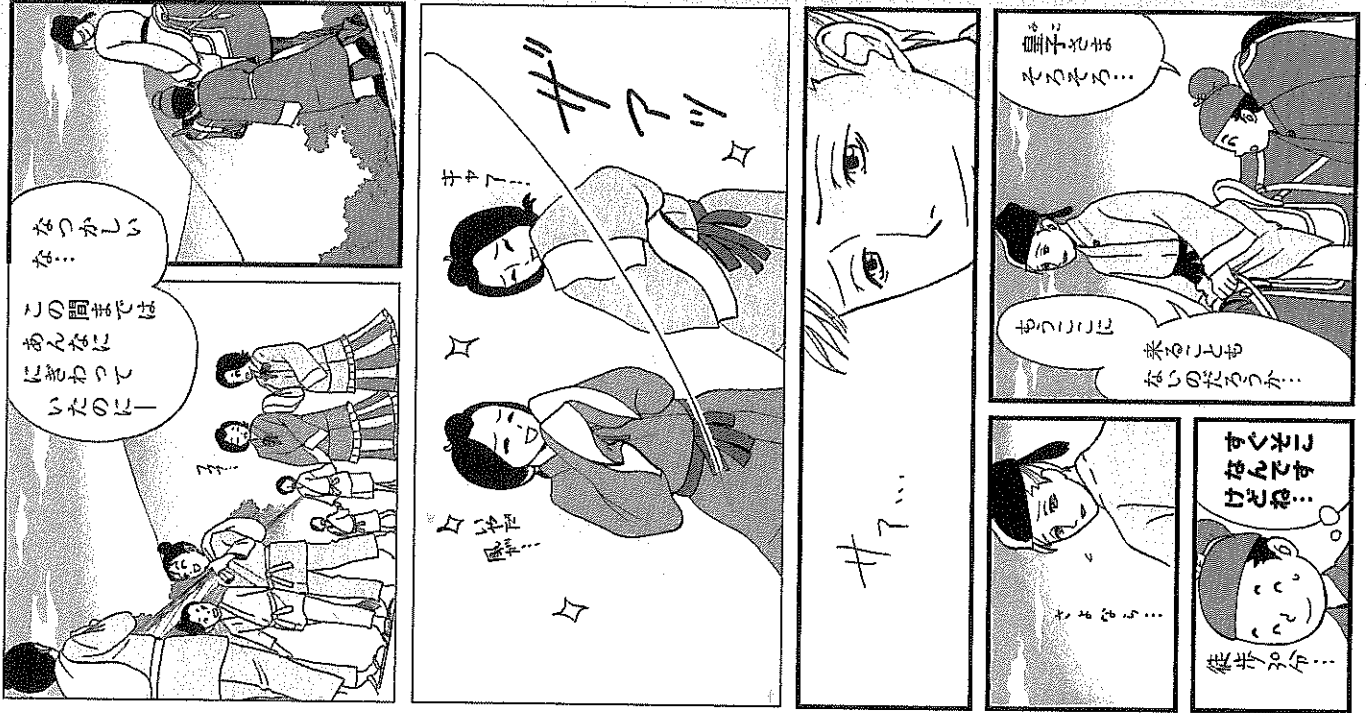


采女の袖吹きかへす 明日香風 都を遠み いたづらに吹く

志貴皇子

采女の袖を吹きひるがえす明日香の風、今は都も遠くむなしく吹くことよ。

さよなら飛鳥



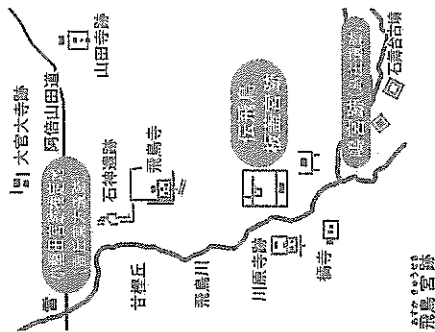
志貴皇子は天智天皇の第七皇子である(→130ページ)

飛鳥宮を離れるさびしさ

現在の奈良県明日香村に置かれた飛鳥浄御原宮から、藤原宮へ遷ったあとに詠まれた歌です。「采女」とは天皇に仕えた才色兼備の官女たちのこと。采女たちは袖の長くきらびやかな服を着ていました。天皇も采女もいなくなったかつての宮処には、ただ風が吹くばかりです。しかし飛鳥宮と藤原京は距離的には離れておらず、徒歩三十〜四十分でした。志貴皇子が飛鳥宮を遠く感じたのは、新しい時代で社会の仕組みが変化したからかもしれません。飛鳥宮は「宮」だけでしたが、藤原京からは中国式の「京」がつけられ、中央集権化が進み、法律にもとづく律令国家が生まれました。

Pick UP 飛鳥宮 複数の天皇の宮

飛鳥では、飛鳥川の東岸に複数の宮が造営されました。宮というのは天皇が住み、政治が行われた場所のことです。この時代は、天皇が変わるたび、ときには同じ天皇の時代でも、宮を建てかえました(→47ページ)。推古天皇即位の年(592)から持統天皇の藤原京遷都(694)まで、現在の明日香村の辺りに、歴代の天皇の宮が営まれました。



歌のことは

- ◆ 袖吹きかへすー風が吹いて、袖をひるがえす。きらびやかな宮廷の情景。
◆ 明日香風ー飛鳥宮に吹いていた風。地名の明日香と風を組み合わせた。
◆ 都を遠みー都との心理的な距離をいう。
◆ いたづらにーむなしく。

ミニ知識

「宮」と「京」の違い

「宮」は、天皇が住む内裏と、政治や儀式を執り行う大極殿、朝堂院などが置かれた宮殿のこと。「京」は宮殿とそのまわりの、役人や庶民の住まい、寺院、市場なども含むエリアを指し、「宮」と「都」がある場所を都城と呼んだ。

作者

志貴皇子(？〜716年)

天智天皇の皇子。奈良時代最後の天皇である、光仁天皇の父。

# 「飛鳥」と「明日香」

飛鳥の 明日香の里と  
置きて去らば 君があたりは  
見えずかもあらむ

作者未詳（巻一・七八）

飛鳥の明日香の里を後にしていったなら、あなたのいるあたりを目にすることができなくなってしまうだろうか。

## 「飛ぶ鳥」は褒めことば

「飛鳥」と書いて、「あすか」と読ませるのはなぜでしょう。「飛鳥の」ということは、明日香という土地に係る枕詞です。枕詞とは、地名など特定のことはに係る歌の技法のひとつで、まったく意味のないことではなく、何らかのイメージのつなが

りを意識して使われたと考えられます。

たとえば「飛鳥の」からは、「鳥がたくさん飛んでいる」「虫や魚など餌が豊富」「動物が栄える豊かな国」というイメージが広がります。「飛鳥の」とは、明日香という土地に対する褒めことばといえるでしょう。「飛鳥の・あすか（明日香）」とうたわれ、定着したのちに、「飛鳥」と書いて「あすか」と読むようになったと考えられています。

## 永遠の「ふるさと」飛鳥

「飛鳥の…」は、藤原京から平城京へ遷都したときの歌で、220ページの恋實皇子の歌よりさらに時が経った奈良時代に詠まれた歌です。飛鳥は日本初の政権であるヤマト政権が生まれた政治の中心地です。また中国や朝鮮半島との交流があり、最先端の技術や文化が伝えられていたため、文化の中心地でもありました。古代の人々は時代が移り、都が変わっても、そんな飛鳥を羨望らしいふるさととして懐かしんだ思いがつかえます。

## 国際都市「飛鳥」

万葉の「飛鳥」は、南北が約1キロ、東西は0.6キロというごく限られた範囲に天皇や天皇に従う豪族たちが暮らすメトロポリスだった。さまざまな国や地域の人々が行き交い、大陸風の迎賓館や、日本初の寺院の壮大な伽藍も広がっていた。



飛鳥大仏

### 飛鳥寺

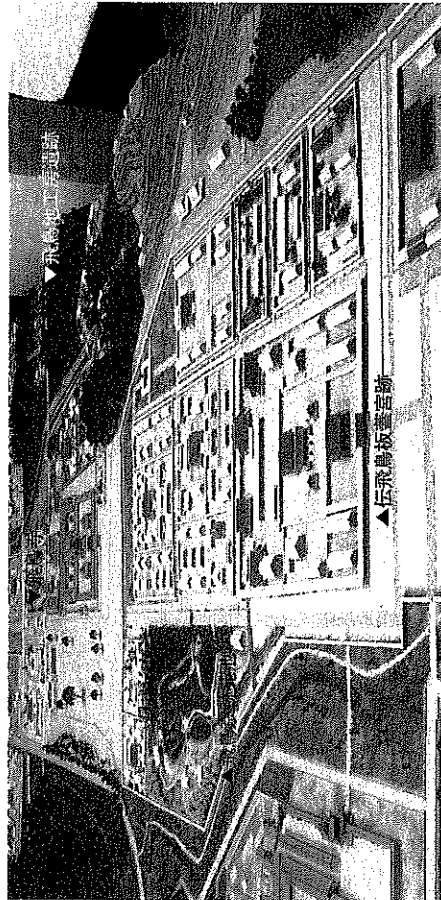
日本最古の寺。外來の瓦が使われ、高い塔が立つ寺は、当時珍しくて新鮮な建築だった。いまも当時と同じ場所に、推古天皇が造らせた「飛鳥大仏」が残る。



富本銭

### 飛鳥池工房遺跡

日本最古の貨幣である、富本銭が製造された工房の遺跡。富本銭は唐の貨幣「開元通宝」がモデルといわれている。（写真は奈良文化財研究所提供）



飛鳥宮跡内景、外郭遺跡（奈良文化財研究所提供）

### 飛鳥京跡苑池

宮廷の庭園跡としては日本最古のものか。外国の使節などを歓迎する饗宴が催されたと考えられている。（写真は奈良県立橿原考古学研究所提供）



### 佐飛鳥板蓋宮跡

飛鳥時代の天皇たちの宮殿跡。当時、屋根に板を使うことが珍しかったため、「板蓋宮」と呼ばれた。



10

天武天皇

[卷二・一〇三]

わが里に 大雪降り 大原の 古り  
にし里に 落らまはは後

わが飛鳥の里には大雪が降る。お前いる大原の古びた里に降るのは、もつとあとだろうね。

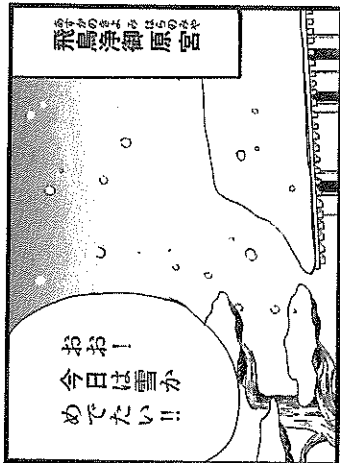
藤原夫人

[卷二・一〇四]

わが岡の 雲に言ひて 落らしめし 雪  
の摧けし 其処に散りけむ

いえそうではありません。この里の雷神に言いつけて降させた雪のかけらが、そちらにちろついたのでしょ。

雪が降るのは



今日は私の住む  
大都會の飛鳥で  
大雪が降っているよ

君の住む  
ト田舎の大原に  
降るのは  
いつだろうね?

何いつてんの  
私が大原の雷神に  
お願いしたおとぼれで  
そちらに降ってるのよ

五巨童さま  
相手は  
大君ですよ

あー!!

大丈夫よ  
あの方は  
こういうシャレが  
好きなの

祐乎!  
田舎でどこ!?

目と鼻の先  
なのに...

なら  
これでとお?

やるな!!

### ❖ 雪は幸運のしるし

『万葉集』には雪を詠んだ歌が多くあります。とくに正月の雪は豊作をもたらす瑞祥とされ、次のような歌もあります。

新しき年のはじめに豊の年しるすと  
りし雪の降れるは

巻17  
3925  
新しくまた年のはじめに、豊作の年のしるしを雪せるらしい。雪が降りつめるのは。

雪が降るのはめでたいこと、喜ぶべきことだったので、天武天皇も思わず弾んだ気持ちで、目と鼻の先にいる妻に向かって「お前のところはまだ降っていないだろう」と、からかうような歌を贈ったのかもしれませんが。そして、藤原夫人(五百重娘)も、ユーモアあふれる一首を返しました。

### ❖ 目と鼻の先の応酬

天武天皇は飛鳥浄御原宮から、大原の里にいた藤原夫人へこの歌を贈りました。当時は別居婚が一般的だったといわれ、藤原夫人も、そのとき宮中ではなく大原の里にいました。天武天皇がいる飛鳥浄御原宮(現・奈良県高市郡明日香村岡)と、大原(明日香村小原)は、歩いて也十分とかかりません。そんな至近距離でのやりとりだとわかると、この歌のおもしろさ、そして、雪が降った喜びを即座に分ち合う夫婦の仲睦まじさが伝わってくるのではないのでしょうか。

### 歌のことは



- ◆ わが里——ここでは飛鳥浄御原宮。
- ◆ 古りにし里に——いまを盛りとときめく意と比べ、「古ひた里」といった。



- ◆ わが岡——大原の里。
- ◆ 籠——大原の里に祀られていた竜神のこと。天皇もつねにこの竜神に祈りを捧げていたのかもしれない。

### 作者

#### ● 天武天皇(？—686年)

大海人皇子とも。壬申の乱を平定し、飛鳥浄御原宮を造営した。『古事記』や『日本書紀』といった歴史書の編纂を命じたとされる。

#### ● 藤原夫人(？—？年)

藤原鎌足の娘のひとり、五百重娘のこと。大原大刀目とも呼ばれる。

### ゆかりの地

#### 大原

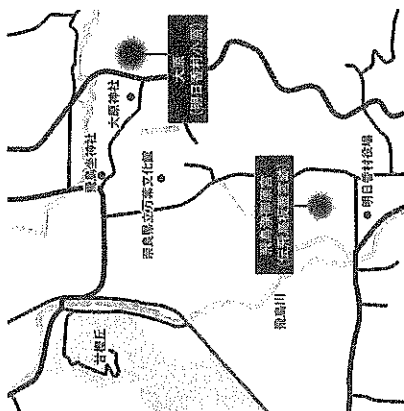
奈良県高市郡明日香村小原。飛鳥坐神社の東南に当たる丘陵地。藤原氏の祖である藤原鎌足誕生の地と言伝えられる大原神社、鎌足の母のもと伝えられる円墳などがある。大原神社の境内には、二首の歌碑がある。



大原神社の歌碑



飛鳥浄御原宮正殿礎元CGモデル(東京大学/池内・水石研究室)



#### 飛鳥浄御原宮 (伝飛鳥板蓋宮跡)

奈良県高市郡明日香村岡にある宮殿跡。発掘調査によって舒明天皇の飛鳥岡本宮(630年)、皇極天皇の飛鳥板蓋宮(643年)、斉明天皇の後飛鳥岡本宮(656年)、天武・持統天皇の飛鳥浄御原宮(672年)という四つの時期の遺構が、ほぼ同じ位置に営まれていたと考えられている。

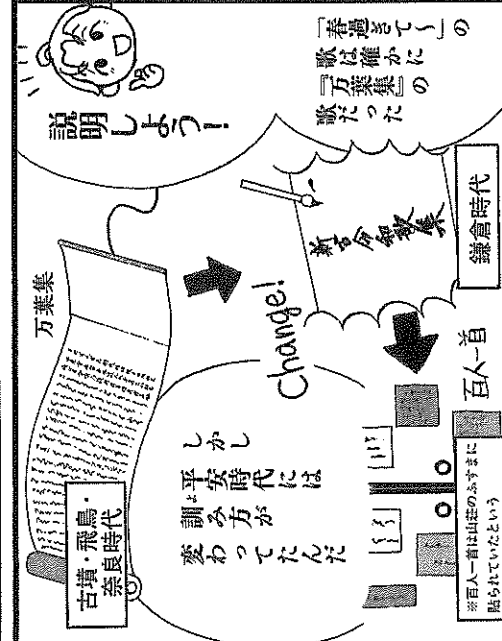
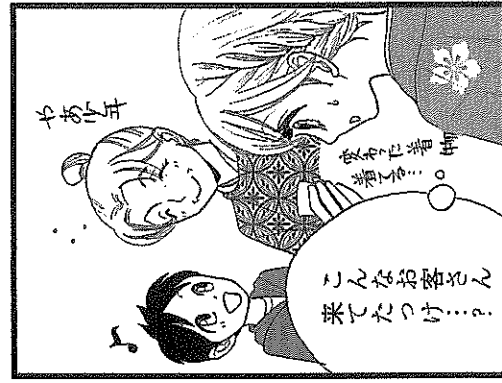
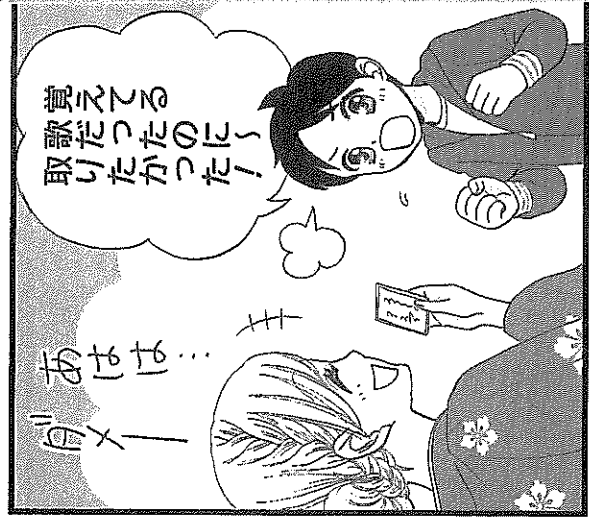
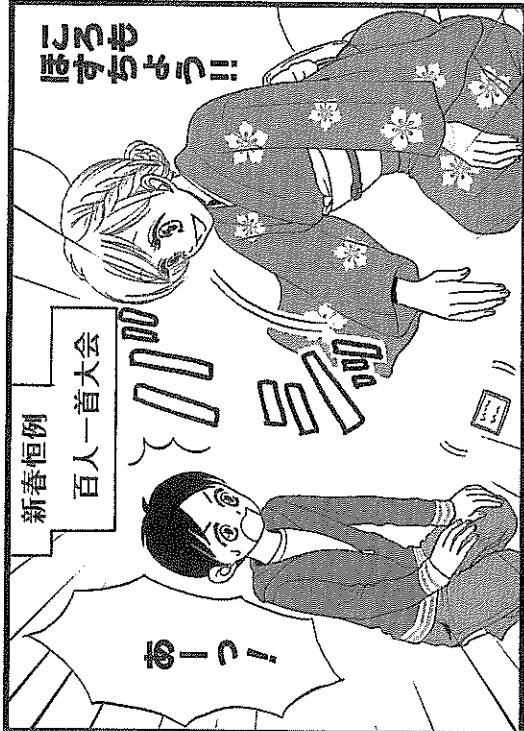
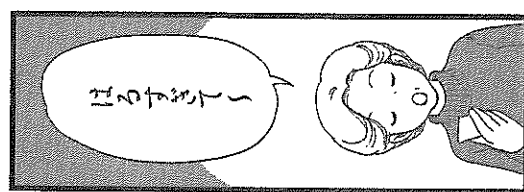
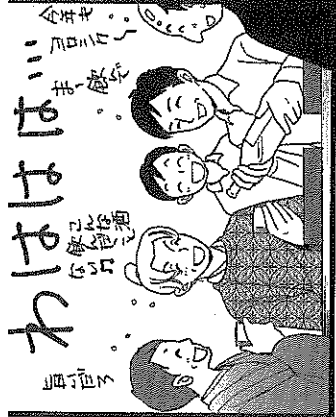
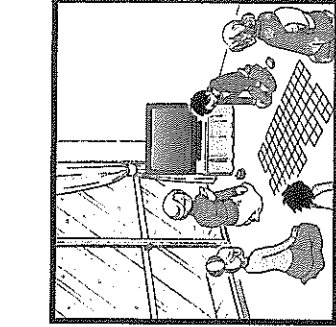
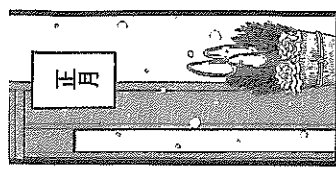
### Pick UP

#### 天武天皇の妻たち

天武天皇には皇后の鸕野讃良皇女(後の持統天皇)、その姉の大田皇女など三人の妃、五百重娘ら三人の夫人に加え、額田王など少なくとも十人の妻がいたことが『日本書紀』などからわかっています(→37ページ・ミニ知識)。兄の天智天皇にも妻は十人以上いて、当時の天皇としては多い数ではありませんでした。

天智天皇		天武天皇	
妻	皇后 ● 鸕野讃良皇女	妻	皇子 草壁皇子
妃	● 大田皇女	妃	● 大田皇女 ● 大津皇子
夫人	● 氷上娘 (藤原夫人・氷上大刀目)	夫人	● 但馬皇女
嬪	● 五百重娘 (藤原夫人・大原大刀目)	嬪	● 大津皇子
皇子	● 大津皇子	皇子	● 高市皇子
額田王	● 高市皇子	額田王	● 十市皇女





季節の歌を  
キレイに  
四季に分けて  
整理したのは

春  
夏  
秋  
冬

そう！  
私は恋の歌も  
大好きだけど

恋の歌が  
多いというのは  
知ってますけど...

お嬢さんは  
『万葉集』を  
知っている  
かい？

トキッ

何を隠そう

私なんだ

はいはい

『万葉集』には  
日常生活の歌も  
たくさんあるよ！

ほっほっ

お嬢さん...

私の出番が  
増えるから  
ヨロシク★

家持くん  
うちの父さんが  
呼んでるわよ

とっぴき  
酒開けたぞ

お嬢さん

『衣が乾く』と  
『天の香真山』と  
いう内容が

『衣を乾す』という天の  
香真山になって

想像上の風景を  
詠んだ内容に  
なっているんだよ

衣乾しだけ  
(万葉集)

衣乾すてひ  
(新古今和歌集)

へそ...

この歌も『万葉集』だと  
「雪は降りける」  
降っただけで

「百人一首」では  
「雪は降りつつ」と  
詠まれているんだ

田子の浦に  
うらち出でてみれば  
白妙の富士の高嶺に  
雪は降りつつ

— 山辺赤人 —

その時代好みの  
詠み方に  
アレンジしたって  
ことだね

平安調  
コスプレ

かたはる奈良時代の人  
万葉集では(山部)

家持くんの歌も  
「百人一首」に  
あるよね？

うーん  
それはなんとも  
いいらいな

そうなの？

秋の田の  
かりほの磯の  
くさむらさき  
わが恋のこほ  
るに濡れつつ

こんど歌  
詠んだらな

天智天皇

私毛  
記憶力！

本の紹介  
『かたはるの  
山部赤人の  
恋の歌』  
山部赤人  
恋の歌

『かたはるの山部赤人の恋の歌』は家持の作ではなく、平安時代の人の歌と  
考えられている。「百人一首」には天智天皇や神皇正統記の歌もあるが、その理由はわからない。

# 万葉びとの「四季観」

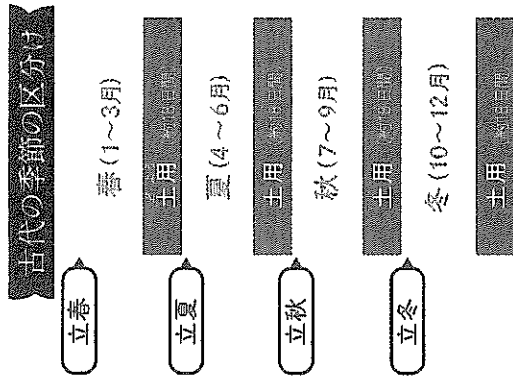
## 四季の分類は奈良時代から始まった

春が過ぎて、夏が来て……と四季観を詠んだ最も古い歌は、持統天皇の歌（→140ページ）です。この頃には中国式の曆が使われていて、下の図のように1〜3月は春、4〜6月は夏、といった考え方が定着していたとみられます。

奈良時代に入ると、歌の世界においても四季が意識されるようになります。「万葉集」では「雑歌」「相聞」「挽歌」など、歌が内容や表現によって分類・配列されていますが、その一部で「春雑歌」や「秋雑歌」というような、季節ごとの歌の分類が行われました。このような分類（四季分類）が行われているのは、全二十巻のうち、巻八と十の二巻のみです。巻八・十は奈良時代に大伴家持によって編纂されたともいわれています。

四季分類が行われたあとから、それぞれの季節を意識して歌を詠むこと、あるいは四季の景物を

詠み込むことが盛んになっていったと考えられています。なおこの分類方法は、平安時代に編纂された『古今和歌集』という歌集以降、和歌に欠かせないものとなっていきます。

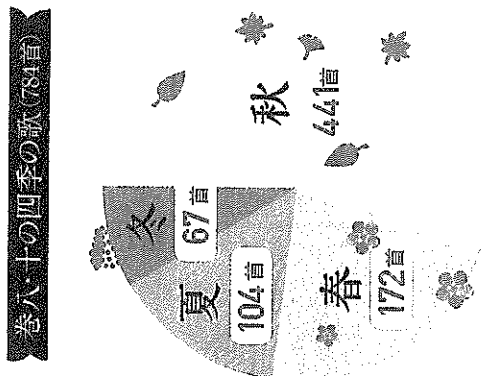


万物はすべて木火土金水の五要素（五行）で出来ているという、古代中国の自然観「陰陽五行説」にもとづいた考え方。木は春、火は夏、金は秋、水は冬、土は季節の変わり目に当てている。

## 『万葉集』で

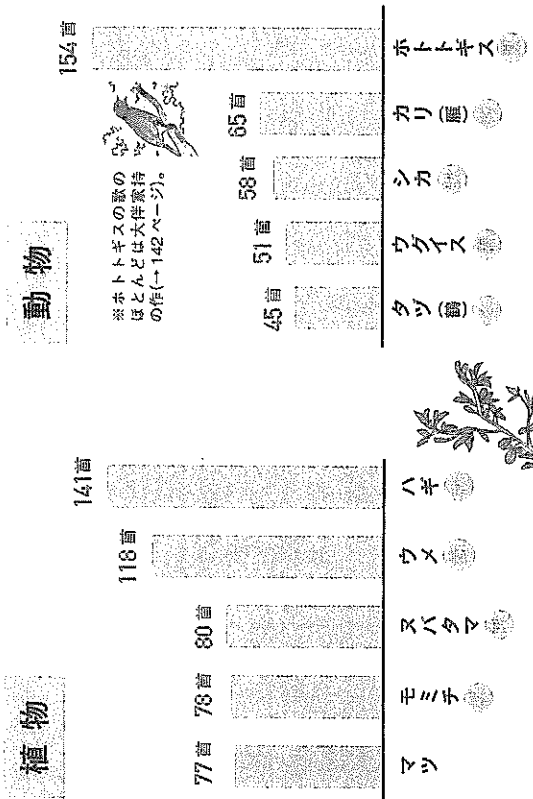
### もつとも詠まれた季節は秋

巻八十に収められている歌を、季節ごとに整理したのが左の図です。秋の歌が他の季節の歌よりも際だつて多いことがわかります。巻八十にはトータルで七百八十四首の歌が載っていますが、そのうち秋の歌は雑歌、相聞合わせて四百四十一首。じつに半分以上が秋を詠んだ歌です。



歌に詠まれた植物や動物の数を比べても、秋の景物として詠まれるものが多い。

## 種類別歌数ランキング



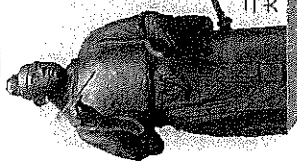
15



## Q. いっしょでいいの?

A. 1300年以上も前

日本における現存最古の歌集で、奈良時代後半に完成したと考えられています。取められているいちばん古い歌は古墳時代のものと考えられますが、それが本当にその当時のものかとは不明です。



二七山  
大伴家持像

## Q. 誰が編集したの?

A. 大伴家持を含めたたたくさんの人

『万葉集』の編纂者として有力なのは、1割以上の歌を詠んだ大伴家持ですが、複数の人が長い時間をかけて編集に関わったと考えられています。

### 時期と歌風

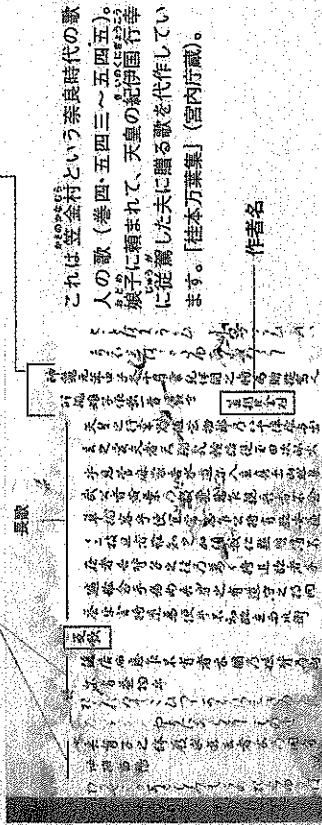
- 第一期 (645年頃) ~ 壬申の乱 (672年) 素朴でおおらかな歌が多い。
- 第二期 (673年頃) ~ 持統天皇没 (702年) 王権を讃えるような、力強い歌が多い。
- 第三期 (703年頃) ~ 長屋王の妾 (729年) 持統天皇没後(703年) ~ 長屋王の妾 (729年) 漢詩や仏教の表現があるなど、多様な歌が多い。
- 第四期 (730年頃) ~ 『万葉集』最終歌 (759年) 長屋王の妾後 (730年) ~ 『万葉集』最終歌 (759年) 繊細で感傷的な歌が多い。

## Q. 奈良時代の本が現在でも残っているの?

A. 残っているのは写本だけ

原本となる巻物は伝わっておらず、平安時代に写された『桂本万葉集』が最も古い写本です。この写本に残っているのは巻四の一部のみですが、色紙を切り継ぎ、花鳥草木を描いた装飾的な巻物になっています。

反歌…長歌に添えられた短歌。長歌の内容を要約したり補足した。 題詞…歌の前書き。



これは笠倉行という奈良時代の歌人の歌(巻四・五四三~五四五)。娘に頼まれて、天皇の配伊弉行等に從駕した夫に贈る歌を代作しています。「桂本万葉集」(宮内庁蔵)。

作者名

※歌のあとには、左注(注釈)が入る場合も。

万葉仮名と呼ばれる文字づかいをはじめ、すべて漢字で書かれています。

※この写本では平安時代の書写者が、歌の読みをひらがなで併記している。

## Q. 『万葉集』ってどういう意味?

A. 歌がたくさんと未来に伝える

「万(多く)の詩章(詩歌)を集めたもの」とする説や、「万代(永遠)に伝えられるべき歌集」とする説などがあります。

### おもむき歌分類

雑歌	宮廷に関わる公的な歌が中心。相聞、挽歌以外の歌	1557首
相聞	恋人や親子などの情愛を詠み交わす歌。恋の歌が多い	1750首
挽歌	亡くなった人の魂を鎮めるために詠まれた歌	218首

『万葉集』の歌はおもに「雑歌」「相聞」「挽歌」の3種類に分類され、これらは「三大部立」と呼ばれます。そのほかの部立(→289ページ)。

## Q. どんな歌があるの?

A. 恋の歌が半数以上

宮廷で詠まれた歌や労働歌まで内容はさまざまですが、半数以上は恋の歌です。

### おもむき歌の形

短歌

五・七・五・七・七 4207首

長歌

五・七・五・七・七  
…五・七・七 265首

雑歌

五・七・七・五・七・七 62首

ほかにも五・七・五・七・七・七・七の八足石歌や、上の句(五・七・七)と下の句(七・七)を合作する連歌が1首ずつあります。

## Q. 「歌」というのは短歌のこと?

A. いまでもおなじみ短歌が中心  
長歌も多く残されている

もともと多いのは五・七・五・七・七音の短歌ですが、五・七・五・七・七を繰り返して、最後を五・七・七で締めくくると長歌や、五・七・七・五・七・七の旋頭歌などもあります。このように決まった形で、個人の感情を表現したようです。

## Q. どんな人が詠んだの?

A. 天皇からさまざまな身分の人々

天皇・皇族や貴族、下級役人だけでなく、兵士、農民などさまざまな人の歌が収められています。老若男女、身分の区別なく、誰もが歌の詠み手だったといわれています。

そもそも『万葉集』とはどんなものなのでしょう。『万葉集』にまつわる疑問を解説します。